

# 日本気象学会 昭和58年春季大会

会期：昭和58年5月18日（水），19日（木），20日（金）  
会場：研究交流センター（茨城県新治郡桜村竹園2-20）

## 目次

会場案内	165
大会行事予定表	166
研究発表内容一覧表	167
シンポジウム内容	167
研究発表題目	168～175

## 会場案内図



注：交通機関の詳細な説明は164頁を参照して下さい。

## 大会行事予定

1. 会場：研究交流センター (Tel. 0298-51-1331)
  - 第1会場 (国際会議場, 2階)
  - 第2会場 (第2会議室)
  - 第3会場 (第1会議室)
2. 会期：5月18日 (水), 19日 (木), 20日 (金)
3. 行事

行事		
大会 (研究発表)	(第1, 第2, 第3会場)	5月18日 (水) 09:30~12:30 13:30~16:30 17:00~18:30
大会 (研究発表)	(第1, 第2, 第3会場)	5月19日 (木) 09:30~12:00
シンポジウム	(第1会場)	13:00~14:50
総会		15:00~15:50
記念講演		16:00~17:30
懇親会		
大会 (研究発表)	(第1, 第2, 第3会場)	5月20日 (金) 09:30~12:30 13:30~17:00

## 昭和58年春季大会

( ) 講演番号, — : 座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
5月18日 (水)	09:30~ 12:30	台風・熱帯気象 (101~115) —近藤洋輝—	気候 (201~214) —能登正之—	エーロゾル (301~315) —矢野直—
	13:30~ 16:30	中小規模現象 (116~131) —中村晃三—	エクマン境界層 (215~231) —近藤純正—	雲物理 I (316~331) —岩井邦中—
	17:00~ 18:30	総観規模現象 (132~138) —田中実—	接地境界層 I (232~239) —山本晋—	雲物理 II (332~339) —遠藤辰雄—
5月19日 (木)	09:30~ 12:00	力学 (139~149) —守田治—	接地境界層 II (240~251) —藤谷徳之助—	放射 (340~351) —村井潔三—
	13:00~ 14:50 15:00~ 15:50 16:00~ 17:30	シンポジウム 総会 記念講演 第1会場：2階		
5月20日 (金)	09:30~ 12:30	大気大循環 (150~162) —久保田効—	接地境界層 II (252~257) —甲斐憲次— 局地循環 I (258~266) —森征洋—	大気化学 (352~361) —村松久史— 大気電気 (362~365) —菊地勝弘—
	13:30~ 17:00	中層大気・長期変動 (163~177) —中村一—	局地循環 II (267~284) —佐橋謙—	応用気象 (366~375) —吉野正敏— 測器 (376~381) —稲田巖—

注) 大会参加費 会員 500 円, 学生会員 300 円, 一般 1,000 円

## シンポジウム「大気境界層について——タワーと風洞に関連して」

1. 日 時 大会第2日(5月19日)
2. 会 場 第1会場(国際会議場:2階)
3. 座 長 内藤恵吉(気象研)
4. 話題提供者

花房龍男(気象研): 気象研鉄塔による大気境界層の解析

植田洋匡(国立公害研): 大気境界層の室内によるシミュレーション

横山長之(公資研): 大気境界層の構造

## 講演発表者へのお知らせ

1. 筑波大会では第1, 第2, 第3会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演時間は質疑を含めて12分程度です。スライド標準枚数は6~8枚です。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下を揃えて下さい。

## 研究発表題目

大会第1日(5月18日) (09時30分~12時30分)

## 第1会場 台風・熱帯気象

座長 近藤 洋輝

101. 岡田憲治(高松地台), 岡林俊雄(気研・物理): 気象衛星資料などから見た台風の進路(特に転向点付近)について
102. 村松照男(気研・台風): 台風眼のトロコイダル運動と多角形 eye, eyewall について(16ミリムービー)
103. 阿部成雄(防衛大): 台風の非対称構造と移動
104. 饒村 曜・山下 洋(気象庁・予報課): 台風の発達・衰弱と海面水温および陸地との関係
105. 山岬正紀(気研・台風): 鉛直シアー中の対流雲群と CISK
106. S.S. Singh(インド熱帯気象研), 杉 正人・金光正郎(気象庁・電計): モンスーン低気圧の予報実験
107. 鬼頭昭雄・時岡達志(気研・予報): MRI・GCM-I で得られた北半球 Summer Monsoon の特徴
108. 安成哲三(筑波大・地球科学), S.V. Singh(インド熱帯気象研): インド・モンスーンの強弱に伴うアジア地域の循環場の変動
109. 村上勝人(気研・台風): 夏のモンスーンにみられる長周期変動の全球的様相
110. 栗原和夫・大野久雄(気象庁・電計): 中・西部太平洋熱帯地方における偏東風波動に伴う雲クラスターの雲域変動
111. 田中 実(気象庁・電計)・西沢利栄(筑波大学・地球科学): 南アメリカにおける熱帯循環の年々の変動
112. 新田 勲・鈴木 靖・中込 緑・長谷川直之・門倉 昭(東大・理): 熱帯対流圏擾乱の全球解析(I)—全球的特徴—
113. 新田 勲・鈴木 靖・中込 緑・長谷川直之・門倉 昭(東大・理): 熱帯対流圏擾乱の全球解析(II)—各地域の特徴—
114. 井上豊志郎(気研・台風): FGGE III-b 資料による水蒸気輸送と大規模積雲活動
115. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): FGGE III-b データにみられる赤道波

## 第2会場 気候

座長 能登 正之

201. 須田滝雄(岐阜大・農): 近年の異常気象頻発の原因と今後の見通し
202. 水越允治(三重大・教育): 古日記の天気記録による古気候推定の試み—18世紀末の伊勢地方の場合—
203. 河村 武(筑波大・地球科学): 生物季節の観測資料の解析を応用した古気候の復元の試み
204. 藤田敏夫(気研・予報): 歴史時代の気候再現の一方法について
205. 田淵 洋(法政大): 東カリマンタンにおける日降水量の年変化と rainstorm
206. 吉野正敏・解 思梅(筑波大・地球科学): 東アジアの夏の雨量変動と北太平洋海面水温変動について
207. 吉野正敏・解 思梅(筑波大・地球科学), 青木孝(気研・予報): 東アジアにおける台風襲来数と北太平洋海面水温変動について
208. 中西 朗(新潟市立東青山小): 瓢湖の白鳥最大羽数とハバロフスクの初冬寒気(1)
209. 青木 孝(気研・予報): 1903~1982年の80年間に日本に襲来した台風の経年変化
210. 棚橋修一(名大・水圏研): 岡山の1月最低気温の長期降下について
211. 春名政弘(草加市立谷塚中): 気温の階段式変化からみた夏の気温の変動
212. 川口貞男(極地研): 南極の気温の経年変化
213. 千葉 長・野本真一・矢島栄三(気研・予報): 中国における降水量, 気温の特性…(1)(主成分分析による季節変化の解析)
214. 吉野正敏(筑波大)・野本真一・千葉 長・矢島栄三(気研・予報): 降水量による中国の地域区分

## 第3会場 エーロゾル

座長 矢野 直

301. 小野 晃・金森暢子(名大・水圏研)・石原正仁(気研): Sulfate in marine aerosols over the western Pacific Ocean
302. 岡田菊夫(名大・水圏研): 都市大気中における

- sulfate 粒子の二つの典型的な粒径分布について
303. 北川信一郎・高橋忠司・笠野俊一・丹羽宣之(埼玉大), 三崎方郎(気象協会), 金沢五寿雄・池上三和子(気研), 中谷 茂(電総研), 関川俊男・増田純夫・関川公成・三浦和彦・栗栖俊治(東理大・理), 児島紘・首藤克彦(東理大・理工), 角田智良(アセス KK): 南関東平野部におけるエアロゾル, ガス汚染質の分布について
304. 池上三和子・金沢五寿雄・伊藤朋之(気研): 対流圏エアロゾルの空間分布の測定
305. 伊藤朋之・池上三和子・金沢五寿雄・広田道夫(気研), 下道 国(名大・工): 長距離輸送中の大気エアロゾルの濃度減少時定数について
306. 村山信彦・根本 修(気研・応用), 鷲 猛(長崎海台), 樋口敬二(名大・水圏研): 1982年5月3~6日の黄砂エアロゾルの分析
307. 柴田 隆・藤原 昇・広野 求和(九大・理): エルチチョン起源成層圏エアロゾルのライダー観測
308. 高橋克己・田端 功・穂田 巖・岡田芳隆・内藤恵吉(気研・衛星): 最近一年間におけるライダー観測の結果
309. 広野求和・柴田 隆・藤原 昇(九大・理): 成層圏エアロゾル1982年の変動と拡散
310. 林田佐智子・小林愛樹智・岩坂泰信(名大・水圏研): エルチチョン火山噴火後の成層圏エアロゾル層の変化—風向と比較した層構造と偏光解消度の変化
311. 内野 修・前田三男・徳永正憲・宮副 泰(九大・工): UV ライダーによる成層圏エアロゾル観測
312. 小林愛樹智・林田佐智子・岩坂泰信(名大・水圏研): 成層圏エアロゾルの形状と組成の推定—レーザー・レーダによる偏光解消度の測定から
313. 伊藤朋之・金沢五寿雄・池上三和子(気研): 膨張霧箱方式のエアロゾルゾンデの開発とその航空機搭載用エアロゾル測定器への応用
314. 中谷 茂(電総研): エアロゾルの単極性帯電
315. 村上正隆(北大・環境), 菊地勝弘(北大・理), 孫野長治(北大名誉教授): 雪結晶によるエアロゾル捕捉実験—捕捉のメカニズムに関する考察—

## 大会第1日(5月18日) 13時30分~16時30分

### 第1会場 中小規模現象

座長 中村 晃 三

116. 阿部成雄・遠峰菊郎(防大): 日高下風の統計による研究Ⅱ
117. 山岸米二郎(気象庁・電計): 数値モデルでの地表面加熱の効果
118. 文字信貴・光田 寧(京大・防災研): 2セル型渦の室内実験
119. 坂田俊夫(衛星センター): 前線層による地衡風波動の上層および下層への分離
120. 山岸米二郎(気象庁・電計): 関東地方の局地的悪天についての一考察
121. 山川 弘(気研・台風): 東日本における台風接近時の東風下の降水
122. 柳沢善次・青柳二郎・榊原 均・松浦和夫・石原正仁(気研): 中緯度において台風周辺に発達する降雨帯の構造—その1>2台のドップラーレーダーを用いた風の3次元観測
123. 中井公太(東管・調査): Band pass filter を用いた地上風の発散解析(1979年8月11日の関東地方の雷雨)
124. 米谷恒春(国立防災センター): 東京都の区部に大雨をもたらした1981年7月22日の雷雨の事例解析
125. 高橋忠司(埼玉大・教育), 竹内利雄・仲野 實(名大・空電研): 北川信一郎・舟木数樹(埼玉大・工) ミクロネシア, ポナペにおける積雲のステレオ写真観測
126. 平沢正信(気象庁・予報): 降雪予報のための寒候期降水予測システム(I)
127. 成瀬廉二・石田 完(北大・低温研): 札幌および北海道各地における積雪量の年変動
128. 永田 雅(気研・予報): 日本海沿岸の降雪量と一般風に垂直な循環の関係—北陸南部~山陰東部地域の降雪について—
129. 荒生公雄・宮崎養生(長崎大・教育): 昭和57年7月長崎豪雨の降水特性
130. 二宮洸三・古賀晴成・山岸米二郎(気象庁・電計): 13 Level 42 km-mesh Model による長崎豪雨予報実験—豪雨域での力学量の分布とバランス—
131. 長谷川隆司(気象庁・予報), 二宮洸三(気象庁・電計): 57. 7 長崎豪雨の総観~中規模解析(ク

ラウド・クラスターと集中豪雨)

## 第2会場 エクマン境界層

座長 近藤 純正

215. 沢井哲滋・片山 昭(気研・予報):海霧特別観測期間中の気象状態—釧路地方における海霧の研究(Ⅲ)—
216. 柳沢善次・石原正仁(気研・台風), 神谷吉紀(東海大):ミリ波レーダによる海霧の観測—釧路地方における海霧の研究(Ⅳ)—
217. 蒲生 稔(公害資源研):混合層の季節変化(その6)
218. 蒲生 稔(公害資源研):混合層の季節変化(その7)
219. 小林博和・宮川 実・赤井幸夫・西宮 昌・千秋 鋭夫(電力中研):ライダとソーダによる下層大気の同時観測(Ⅱ)—混合層の発達とエアロゾル鉛直分布について—
220. 近藤純正・萩野谷成徳(東北大・理):混合層の発達の簡単なモデル化
221. 藤谷 徳之助・花房 龍男(気研・物理):乱流統計量の高度と安定度による変化(Ⅵ)
222. 藤谷 徳之助(象研・物理), 松岡登志・中村 匡善(気研・衛星):気象観測鉄塔で観測された風の特性(Ⅰ)
223. 西山 宏・岩井秀夫・阿部克也・上部ウィリー(高層気象台):保留気球観測資料を用いる上昇流推定法
224. 島貫 陸(東京学芸大):大気境界層の時間高度2次元データの解析(3)
225. 北林 興二・吉門 洋・近藤 裕昭(公資研):筑波山周辺における気流観測(序報)
226. 林 隆・角田 道生(日本原子力研究所):2点レーゾンによる流跡線観測
227. 安田延壽(東北大・理):斜面下降流—顕熱とコリオリの影響
228. 板宮憲一・増田幸一(㈱日科技研), 岡本 真一・小林恵三(産公防), 島貫 陸(学芸大):複雑地形における風の推定について(Ⅰ)
229. 近藤 純正・三浦 章(東北大・理):熱収支計算や境界層数値実験のための日射量の実験式
230. 森 征洋(香川大・教育):半日周期大気潮汐に対する大気境界層の応答について
231. 石田廣史(神船大), 光田 寧(京大・防災研):

AMTEX '75 における プイ観測資料による中規模擾乱の特性—Ⅰ

## 第3会場 雲物理Ⅰ

座長 岩井 邦中

316. 大竹 武(アラスカ大学):氷霧の中でのエアロゾルの除去機構
317. 和田 誠(極地研), 武田喬男(名大・水圏研):昭和基地で観測された南極の雨の性質について
318. 赤板 健治・武田 喬男(名大・水圏研):気象衛星NOAA-7号の多波長データを用いた上層雲の解析
319. 横山 辰夫・石坂 隆(名大・水圏研):多波長レーダーで見た融解層の微物理過程Ⅱ. 0.86 cm, 3.2 cm レーダーによる観測
320. 松尾敬世(気研・物理), 榊原 均(気研・予報), 青柳 二郎・松浦 和夫(気研・衛星):地雨性降水の鉛直分布のレーダ観測
321. 遠藤辰雄・小西啓之・若浜五郎(北大・低温研):加熱蒸散による霧および雲水量の連続自動測定法と観測例
322. 八木鶴平・上田 博(国立防災センター):北海道釧路市における海霧の観測Ⅲ
323. 上田 博・八木 鶴平(国立防災センター):北海道釧路市における海霧の観測Ⅳ
324. 木村忠志(防災セ・雪害研), 梶川正弘(秋田大・教育):長岡で観測された凍雨について
325. 若浜五郎・遠藤辰雄・山田知充・藤吉康志・秋田谷英次・遠藤八十一・小林俊一・成瀬廉二・古川義純・小西啓之・入川真理・橋本雅之(北大・低温研):石狩平野における降雪の広域同時立体観測
326. 遠藤辰雄・藤吉康志・入川真理・小西啓之・山田知充・若浜五郎(北大・低温研):降雪雲のゾンデとレーダによる同時観測
327. 山田知充・成瀬廉二・秋田谷英次・遠藤八十一・小林 俊一・若浜 五郎(北大・低温研):石狩平野における一降雪の水量と分布
328. 藤吉康志(北大・低温研):雪片の構成要素の時間変化(Ⅰ)
329. 遠藤辰雄(北大低温研), 谷口 恭(北大理), 穂積邦彦(斜里高):スノークリスタルゾンデの一測定例による雪片の形成過程の考察
330. 佐粧純男・松尾 敬世(気研・物理):雪片形成に及ぼす速度変動の効果について

331. 岩井邦中(信州大・教育): c/a が1前後の雪の結晶雲粒付着と落下の姿勢  
雲物理 II  
座長 遠藤辰雄
332. 高橋忠司(埼玉大・教育), 中山満茂(群大・工): フランホーヘル回折による雲粒の粒径分布の測定
333. 田中豊頭(気研・物理): 雲粒に含まれる氷晶核 II—検出装置と若干の結果—
334. 大竹 武(アラスカ大学): 巻雲を作る氷晶の生成機構
335. 山下 晃・森田隆一・桜井 出・成重和子(大教大): 雲粒と相対運動しながら成長する人工雲の結晶
336. 浅野 浅春・山下 晃(大教大): 融点直下で気相成長する氷の結晶
337. 佐藤 昇・菊地 勝弘(北大・理): 奇形雪結晶の生成(II)
338. 権田武彦・五味秀樹・佐藤隆史(東理大・理工): 低圧空気中で成長する氷晶表面上の growth step のその場観察(1)
339. 清 忠師・宮師 誠・権田武彦(東理大・理工):  $-15^{\circ}\text{C}$  低圧空気中に於ける氷晶の成長速度(2)

### 大会第1日(5月18日) 17時00分~18時30分

#### 第1会場 総観規模現象

座長 田中 実

132. 竹内衛夫・内山徳栄(気象研・予報): 上層寒冷渦およびそれに伴う日本海における極気低気圧と里雪について
133. 岡田良平・今井一郎(東海大・海洋): 季節風吹出時における日本海からの蒸発量と北陸での降水量との関係について
134. 加藤内蔵進(東大・海洋研): 日本海北部における梅雨期の成層状態と下層での熱水蒸気収支の解析
135. 工藤泰子(筑波大): 地形効果によるオホーツク海気団の変形
136. 大野久雄・伊佐真好(気象庁・電計): GMS 観測による雲 $\leftrightarrow$ ゾンデ観測による鉛直水蒸気分布の統計値
137. 大野久雄・畠山太郎(気象庁・電計): “ラージスケール” リチャードソン数で表現される CAT 域—12層北半球スペクトルモデルを使用して—
138. 大野久雄・三浦信男(気象庁・電計): 8層北半球モデルを使った曇天(overcast)域予報

#### 第2会場 接地境界層 I

座長 山本 晋

232. 高原浩志・樋口敬二(名大・水圏研): 氷河が接地境界層に与える熱的影響—ネパール・ヒマラヤにおける観測—
233. 近藤純正・山沢弘実(東北大・理): 夜間の地表面の放射冷却と積雪および日本各地の最低気温極値
234. 西村 寛・前野紀一(北大・低温研): 南極の吹雪時の雪粒子粒径分布と高度分布
235. 近藤純正・山沢弘実(東北大・理): 積雪面の抵抗係数の研究
236. 近藤純正・山沢弘実(東北大・理): 積雪面熱収支の基礎的研究(3)
237. 播磨屋敏生・真木雅之・菊地勝弘・谷口 恭(北大・理), 大平貴裕・吉弘雅士(北大・環境): 盆地における冷却過程(III)
238. 光田 寧・塚本 修・根井 充(京大・防災研): 稜線上の風速変動の構造について
239. 真木雅之・播磨屋敏生・菊地勝弘(北大・理): 盆地における冷却過程(IV)

### 大会第2日(5月19日) 9時30分~12時00分

#### 第1会場 力学

座長 守田 治

139. 猪川元興(気研・予報): 可変格子のノーマルモードと可変格子を伝わる波の挙動
140. 野田 彰(気研・予報):  $\frac{1}{2}$ ラグランジュ的運動の記述と変分原理
141. 余田成男・向川 均・廣田 勇(京大・理): 地形を含む傾圧モデルにおける不安定性について
142. 高野清治・宮原 三郎(九大・理): 定常プラネタリー波の平均東西風加速
143. 高橋正明(九大・理): 半年振動の数値モデル II
144. 山中大学(宇宙研), 田中 浩(名大・水圏研):

中部成層圏で観測された「突風層」について

145. 吉澤宣之(名大・水圏研): 回転流体中で加熱によって生じる渦の安定性
146. 新野 宏(気研・物理), 三沢信彦(東大・海洋研): 回転流体中の水平シア流の安定性(その4) —ジェット的不安定の室内実験—
147. 木村竜治・三沢信彦・石川浩治(東大・海洋研), 新野 宏(気研・物理): 水平シア流中に作られた強制渦の変形と移動(序報)
148. 高谷美正(気象大): 順圧流の線形初期値問題に関する一般的考察
149. 野上 豊(京大・理): 地球流体におけるソリトン

## 第2会場 接地境界層 II

座長 藤谷 徳之助

240. 甲斐憲次(筑波大・水理センター): 台風接近時に30m鉄塔で観測された強風の特性
241. 光田 寧・塚本 修・片岡 毅(京大・防災研): 乱流エネルギーの発生と伝播(3)—大気境界層における乱流エネルギー収支の研究—
242. 内藤玄一(国立防災センター): 接地境界層における乱流のコヒーレンス—空間間隔が大きい場合—
243. 横山長之・林 正康・水野建樹・山本 晋・近藤裕昭(公害資源研): 晴夜安定層中の乱流と波動の測定(その5)
244. 花房龍男・藤谷 徳之助(気研・物理): 乱流統計量の高度と安定度による変化(V)
245. 千葉 修(高知大・理): 中立時の風速鉛直成分の歪度と尖度の高度依存について
246. 千葉 修・斎藤賢二・菊地 時夫(高知大・理): 接地気層における中立時の乱れのスケールの高度依存について
247. 塚本 修・光田 寧(京大・防災研): 大気境界層における水蒸気変動の乱流特性
248. 戸矢時義(気研・応用), 安田延壽(東北大・理): 裸地面からの蒸発—水蒸気変動量のスペクトル解析—

249. 渡辺 裕・大西外史(防衛大): サーマルの数値シミュレーション
250. 近藤純正・川中敦子(東北大・理): 粗度物体から成る地表面のエネルギー交換のモデル化の研究
251. 土屋 巖(国立公害研), 佐橋謙(岡山大・教育): 温湿度を一定にした風洞内の大型蒸発計からの蒸発(2)

## 第3会場 放射

座長 村井 潔 三

340. 田中正之・中澤 高清・深堀 正志(東北大・理): 高圧下に於ける二酸化炭素の吸収特性 I
341. 松原廣司・鈴木 剛彦・大越 延夫(高層気象台): オゾン観測よりみた大気中ダストの変化傾向について—エルチジョン火山噴火の影響に着目して—
342. 村井潔三・小林正治・関根正幸・浅野正二(気研・高物): 筑波における冬季の大気混濁の変動
343. 田中正之・中島映至・塩原匡貴・山野 牧(東北大・理), 荒生公雄(長崎大・教育): 長崎における黄砂の観測-II.
344. 村井潔三・小林正治・関根正幸・浅野正二(気研・高物): 航空機による日射の分光測定
345. 嘉納宗靖・八尾 孝(気研・高物): 窓領域赤外放射の変動
346. 宮内正厚(気研・高物): 層状雲の散乱透過光の分光測定
347. 武田喬男・堀口光章・赤枝健治・岩坂泰信(名大・水圏研): レーザ・レーダによる雲の偏光消度の観測
348. 山内 恭(極地研), G.G. Compbell (NCAR/CIRA-CSU): 衛星および地上の放射観測値比較の試み
349. 久保田効・今井博子(気研・予報), 高橋大知(衛星センター): 地球-大気系に出入りする放射量の変化
350. 佐藤隆夫(長崎大): 大気中の第三次散乱光の計算結果(9)
351. 佐藤隆夫(長崎大): 大気中の第三次散乱光の計算結果(10)

## 大会第3日(5月20日) 09時30分~12時30分

### 第1会場 大気大循環

座長 久保田 効

150. 浅田 正(京大・花山天文台): 変形半径より大

きな渦の数値実験と木星南熱帯攪乱

151. 木田秀次(気研・予報): 中層大気大循環の2次元モデルの一方



152. 時岡達志・鬼頭昭雄・片山 昭(気研・予報): 東部赤道太平洋の異常海水温の影響に関する数値実験—El Niño 完熟期における大気の応答—
153. 楠 昌司(東大・理): 大規模山岳に励起されるプラネタリー波に対する粘性の効果—多重平衡解の可能性に関する再検討—
154. 岸保勘三郎・工藤 恵(東大・理): 夏季北半球大気中における非軸対称高度場のテレコネクション
155. 隈 健一(東大・理): 地球大気 の 熱源に対する線型応答
156. 岩嶋樹也・山元龍三郎・竹内義明(京大・理・気候変動実験施設): 時間空間スペクトル大気大循環モデル—Low-order モデルによるテスト—
157. 金光正郎・多田一正・工藤達也・佐藤信夫・伊佐真好(気象庁・電計): 気象庁ルーチン北半球スペクトルモデルについて
158. 金光正郎・住 明正(気象庁・電計): 12層北半球スペクトルモデルの系統的誤差の研究 (I. 構造)
159. 住 明正・金光正郎(気象庁・電計): 12層北半球スペクトルモデルの系統的誤差の研究. II
160. 増田善信(気研・予報): 気圧変化傾向(app)と実測風から求めた鉛直流の4次元資料同化への利用
161. 時岡達志・鬼頭昭雄(気研・予報): MRI・GCM-Iによる1年間のシミュレーション
162. 谷貝 勇・時岡達志(気研・予報): 全球12層大気大循環モデルによる1月のシミュレーション(II) —超長波の振るまいについて—

## 第2会場 接地境界層 III

座長 甲斐憲次

252. 米谷俊彦(岡山大・農生研): 植物群落上の乱流特性について (16)
253. 佐藤 威(東北大・理): 植物群落内の植物体の平均熱伝達係数
254. 真木太一(農技研・気象科): 草地における防風網の乱流特性から見た減風機構について
255. 大滝英治(岡山大): 炭酸ガス濃度分散の収支
256. 大滝英治(岡山大): 赤外線炭酸ガス・水蒸気計を用いた乱流輸送量の直接測定
257. 寄崎哲弘(筑波・大環境), 甲斐憲次(筑波大・水理), 花房龍男(気研・物理): 接地層の2高度で

測定した顕熱フラックスのクロススペクトル特性  
局地循環 I

座長 森 征洋

258. 「広域大気汚染の動態」観測グループ, 担当者: 浅井 富雄・藤部 文昭(東大・海洋研): 相模湾域における海陸風と汚染物質の分布—海陸風の特徴…最終報告—
259. 「広域大気汚染の動態」観測グループ, 分担者: 鶴田治雄(横浜市公害研): 相模湾域における海陸風と汚染物質の分布—汚染物質濃度の立体分布と日変化—
260. 「広域大気汚染の動態」観測グループ, 分担者: 浅井富雄(東大・海洋研), 鶴田 治雄(横浜市公害研): 相模湾域における海陸風と汚染物質の分布—沿岸域における汚染物質濃度分布に対する海陸風の役割—
261. 鈴木彌幸・村山信彦・荒川正一・吉川友章(気研・応用): 瀬戸内海の局地観測—1982—
262. 村山信彦・木村富士男・戸矢時義・小出 孝・栗田 進(気研・応用): 瀬戸内の大気汚染と気象の航空機観測(第2報)
263. 佐橋 謙(岡山大・教育): 岡山市付近の海風パターンと汚染パターン
264. 木村富士男・荒川正一・佐藤 功・村山信彦(気研・応用): 近畿地方における局地風の数値シミュレーションと実測風との比較
265. 栗田 進(気研・応用): Z\*系を用いた変分法による風の解析
266. 白木正規(気研・予報): 風の日変化と一般風(2)

## 第3会場 大気化学

座長 村松久史

352. 土器屋 由紀子・広瀬勝己・葛城幸雄・杉村行勇(気研): 日本各地における主要化学成分の降下量について
353. 金沢照子(気研), 猿橋勝子・三宅泰雄(地球化学研究協会): 降水の pH について
354. 土器屋 由紀子・広瀬勝己(気研): 筑波の大気浮遊塵の化学組成
355. 広田道夫・室松富二男・橋本雅彦・福井史雄・桑島正幸・村松久史(気研, 地磁気観測所): 対流圏におけるハロゲン化炭化水素の寿命, 北海道・女満別における  $CF_2$ ,  $Cl_2$ ,  $CFCl_3$  の測定(2)
356. 伏見克彦(気研・地球化学): 筑波における地表

付近大気中の二酸化炭素含量 (その2)

357. 井上久幸・杉村行勇 (気研): 筑波における地上付近の大気中二酸化炭素の安定同位体比
358. 鶴田治雄 (横浜市公害研), 宮田 明・岩上直幹・小川利紘 (東大・理): 対流圏における  $O_3$  濃度と紫外線量の観測 (I)
359. 近藤 豊・高木増美・岩田 晃 (名大・空電研): 航空機による上部対流圏  $NO_x$  の測定
360. 関原 疆 (東理大): 磁気嵐に伴う下部成層圏の組成変化
361. 村松久史・佐々木 徹・広田 道夫 (気研・高物): 成層圏微量成分2次元モデル (I)

### 第3会場 大気電気

座長 菊 地 勝 弘

362. 舟木数樹 (埼玉大・工), 仲野 實・竹内利雄 (名大・空電研), 高橋忠司 (埼玉大・教育), 北川信一郎 (埼玉大・工): ミクロネシア・ポナペ島における雷観測結果 (I)
363. 高木伸之・仲野 實・河崎善一郎・野久保武史・竹内 利雄・仲井 猛敏 (名大・空電研): 帰還雷撃における光強度変化の特性
364. 仲野 實・高木伸之・竹内利雄・河崎善一郎 (名大・空電研): 帰還雷撃速度の測定 (II)
365. 舟木 数樹・三木 勇 (埼玉大・工): 南関東 春期雷における正・負極性落雷の比較

## 大会第3日 (5月20日) 13時30分~17時00分

### 第1会場 中層大気・長期変動

座長 中 村 一

163. 田平 誠 (愛知教育大): 火山爆発によって発生するインフラソニック波の長距離伝播に伴う基本周波数変化について
164. 神沢 博 (極地研): 成層圏全球平均温度の垂直勾配の準半年振動
165. 廣岡 俊彦・廣田 勇 (京大・理): 上部成層圏自由振動モードロスビー波の全球解析
166. 廣田 勇 (京大・理): 中層大気重力波の統計的研究
167. 木田秀次 (気研・予報): 中層大気の一般風形成に貢献する内部重力波の数値実験
168. 林 祥介・松野 太郎 (東大・理): 中間圏内部重力波の酸素再結合反応による増幅 III
169. 川平 浩二 (京大・理): プラネタリー波によるオゾン変動の研究 (IV)
170. 長谷部文雄 (京大・理): オゾン全量の経年変動と下部成層圏の大循環
171. 荒井 康 (気研・台風): 相関図における Key Area について
172. 田口彰一・浅井富雄 (東大・海洋研): プロッキングの統計的解析 (2)
173. 下道正則 (気象庁・高層): 日本における高層気象要素の長期変動—1. 気温の長周期特性
174. 田宮兵衛 (気研・予報): 500 mb 面高度の年々の変動について
175. 村木 彦磨 (気象庁・海洋): 北半球客観解析資料

からみた極東域の雨期の推移 (1979年5~8月)

176. 武田 喬男・池山 雅美 (名大・水圏研): 北西太平洋上の雲量の30日変動
177. 武田 喬男・池山 雅美 (名大・水圏研): 西太平洋上の雲量の30日変動の振幅の地域差

### 第2会場 局地循環 II

座長 佐 橋 謙

267. 宮田賢二・森宗 令子 (広島女子大), 瀬戸 信也・大原真由美 (広島県環境センター), 渡部浩章 (松江地台): 中国山地の局地風
268. 田中正昭 (京大・防災研): 京都盆地の局地気象 (2)
269. 楠田 信・阿部 信男 (大分高専): 海陸風 hodograph の反時計回りの回転について (その2)—水平移流項の影響—
270. 植田洋匡・光本茂記 (国公研), 末延 龍雄 (日本電子計算 K.K.): 非静力学メゾスケール・モデルによる海陸風の数値実験
271. 近藤裕昭 (公資研), 竹内秀子 (日本情報サービス K.K.): 二次元海陸風の水平運動について
272. 加藤眞規子 (気研・物理): 大型風洞による拡散実験について
273. 角田道生 (原研), 安達隆史 (気象協会): 拡散実験による沿岸地域の濃度鉛直分布
274. 近藤純正・森 洋介・安田延寿・佐藤 威・萩野谷成徳・三浦 章・山沢弘美・川中敦子・庄司邦彦 (東北大・理 および 宮城教育大): 盆地内に形成される夜間の安定気層 (冷氣湖)

275. 森 洋介\*・近藤純正\*\*・佐藤 威\*\*・庄司邦彦\*  
(\* 宮城教育大, \*\* 東北大・理): 夜間冷却に及ぼす地形の影響
276. 山本 晋, 横山長之・蒲生 稔・林 正康(公害資源研): ヘリコプターによる大気乱流の測定(その2)
277. 水間満郎(京大原子炉): 泉南地域における海陸風の観測(Ⅱ)
278. 渡辺 明(福島大): 猪苗代湖北岸地域の気温変動について
279. 平松 親・孫野長治(北大・環境研): 札幌市の大気環境Ⅵ—冬季に現われる陸風の鉛直構造の観測
280. 大畑哲夫(名大・水圏研), D.D. Mulmi (トリビュヴァン大学ネパール): ネパール・ヒマラヤの大規模な谷における山谷風の構造
281. 孫野長治(気象協会・北海道本部): 沿岸滑昇海霧について
282. 孫野長治(気象協会・北海道本部): 1982年釧路の海霧の特別観測の記録
283. 枝川尚資(京大・防災研): 琵琶湖の湖面上の風について(第1報)
284. 前野十行(河原塚中), 大井正一(理科大): 後立山の雲の特徴(1)

### 第3会場 応用気象

座長 吉野正敏

366. 真鍋大覚・佐藤洋子(九大工), 志賀正信: 梅雨期降水量と火口硫黄生産量
367. 真鍋大覚・佐藤洋子(九大工), 志賀正信: 海上視程と電離層高度
368. 小沢 正(武南高): 松本深志高の雷雨遭難について
369. 平松 親(北大・環境研): 月別に見た札幌の気

候と天気図解析—理科Ⅰ実習の試み

370. 橋口昭久(日体荏原高校), 矢内秋生(目白学園女子短大): 街路樹の防塵効果—身近なテーマから環境教育を行う試み—
371. 榊原保志(足立七中): 中層建築物の温度環境の実態
372. 小河原正巳(千葉商大), 鈴木栄一(青学大): 台風を中心位置に関する確率予測
373. 鈴木栄一・宮田雅智・本郷 茂(青学大): 状態要因, 量的要因を総合した一般線型モデル
374. 北岡龍海(片平エンジニアリング): 昭和57年1月15日大津市比良山系スリバチ山におけるセスナ機墜落時の気象
375. 真鍋啓三(防衛庁技術1研): 地上用雷電探知装置による北陸地方の冬季雷観測結果について

### 第3会場 測器

座長 穂田 巖

376. 柳沢善次・青柳二郎・榊原 均・松浦和夫・石原正仁(気研): 2台のドップラレーダ観測とデータ処理
377. 内野 修・前田三男・徳永正憲・宮副 泰(九大・工): ライダーによる対流圏・下部成層圏オゾン測定
378. 村松久史・広田道夫・佐々木 徹(気研・高物): 高度40kmまでのオゾン観測(Ⅰ)
379. 山内 恭・川口貞男(極地研), 岩品伊佐雄・瀬尾洋一・芳野起夫(電通大): NOAA-6,7のTOVSによる南極大気オゾン全量の導出
380. 高山陽三・高島 勉(気研・衛星): 静止気象衛星・軌道衛星による赤外域での観測
381. 岡村博文(気研・台風): 台風域の海上風観測—Seasat-1搭載のマイクロ波リモートセンシング—